

東京ニューシティ管弦楽団

音楽監督・常任指揮者 内藤 彰
 アドミニストレイティブディレクター 渡部 中子
 コンサートマスター 藤田 めぐみ
 インспекター 金岡 秀典、山川 奈緒子
 ライブラリアン 上村 雅英
 事務局 渡辺 晶子、鈴木 光子、青木 勝弘、石澤 仁志、折笠 桃子

●—————Violins

◎藤田 めぐみ
 ○上原 まさみ
 荒巻 泉
 犬飼 素子
 井上 直子
 大津 千代子
 岡田 邦子
 小澤 郁子
 小澤 薫
 坂井 みどり
 鈴岡 淳子
 鈴木 順子
 鈴木 わらび
 高階 久美子
 網木 郁
 富山 ゆりえ
 中村 朱見
 樋口 美佐子
 宮林 陽子
 室井 美子

●—————Violas

山江 洋子
 山川 奈緒子
 山本 佳子
 ●—————Violins
 ○桜井 多美子
 安達 いづみ
 塩路 まもる
 高瀬 有美
 平沢 純
 堀江 冬子
 松田 美奈子
 光行 澄子
 ●—————Violoncellos
 ○斎藤 章一
 青嶋 直樹
 大島 純
 葛西 英一
 鈴木 和生
 谷口 節夫
 富成 倫子
 橋本 しのぶ

●—————Doublebasses

○金岡 秀典
 江上 靖
 菅形 祐介
 徳高 宏行
 野崎 知之
 若林 昭
 ●—————Flutes
 井ノ上 洋
 内山 豊美
 ●—————Oboes
 徳田 振作
 井上 恵子
 ●—————Clarinets
 西尾 郁子
 菊地 秀夫
 ●—————Bassoons
 藤田 旬
 齋藤 美和子
 當真 令子

●—————Horns

小川 正毅
 大森 啓史
 飯島 さゆり
 広川 実
 上村 雅英
 ●—————Trumpets
 中西 清一
 染谷 始
 奥野 儀光
 ●—————Trombones
 竹田 俊幸
 尹 富弘
 ●—————Bass Trombone
 沼田 司
 ●—————Timpani
 藤城 佳之
 ●—————Percussion
 平子 久江
 ●—————Stage manager
 青木 勝弘



東京ニューシティ管弦楽団

第15回定期演奏会

東京ニューシティ管弦楽団 2000年度定期演奏会

▶ 第16回定期演奏会

6月4日(日) 2:30pm 東京芸術劇場 大ホール
 指揮:リカルド・フリッツァ/テノール:ファン・ディエゴ・フローレス
 “華麗なるロシア・オペラの世界”
 料金:S席 ¥11,000/A席 ¥9,000/B席 ¥7,000/C席 ¥5,000/D席 ¥4,000

▶ 第17回定期演奏会

6月22日(木) 7:00pm 東京芸術劇場 大ホール
 指揮:内藤 彰/テノール:ピエトロ・バッロ
 第1部 ベルリオーズ 序曲「ローマの謝肉祭」 作品9 イタリア・カンツォーネ集
 第2部 “女心の歌” “人知れぬ涙” “フェデリコの嘆き” 他
 料金:S席 ¥9,000/A席 ¥7,000/B席 ¥5,000/C席 ¥3,000

▶ 第18回定期演奏会

9月24日(日) 2:30pm 北とびあさくらホール
 指揮 内藤 彰/合唱 東京合唱協会
 ドヴォルザーク 序曲「謝肉祭」 作品92/ドヴォルザーク スターバト・マーテル
 料金:S席 ¥6,000/A席 ¥4,500/B席 ¥3,000

▶ 第19回定期演奏会

10月27日(金) 7:00pm 東京オペラシティ コンサートホール
 指揮:内藤 彰/ピアノ:フィリップ・ジュリアーノ(95年ショパン国際ピアノコンクール最高位)
 プラームス 悲劇的序曲 作品81/ショパン ピアノ協奏曲第1番 ホ短調 作品11
 メンデルスゾーン 交響曲第4番 イ長調 「イタリア」 作品90
 料金:S席 ¥6,000/A席 ¥4,500/B席 ¥3,000

●団体割引・セット券割引については事務局にお問い合わせください。●やむを得ぬ事情により、出演者、曲目が変更になる場合がございます。何卒ご了承ください。

東京ニューシティ管弦楽団事務局

<http://www2.plala.or.jp/newcity/>

〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-31-13 ライオンズマンション東池袋第3-805 TEL:03-5952-7617 FAX:03-5952-7618



音楽界のサポーター

より良いコンサートのために……。

アイ・エム・エス ●楽器リース ●保管 ●移動 ●ステージ・スタッフ派遣

〒167-0043 東京都杉並区上荻2-3-4 ゆうてんビル1F PHONE.03-3397-2292 FAX.03-3397-7728
 URL <http://www.jade.dti.ne.jp/~ims> E-mail ims@jade.dti.ne.jp

2000年4月6日(木)

午後7時開演

東京芸術劇場大ホール

■主催 東京ニューシティ管弦楽団

〈本日のロビーコンサート〉
 モーツァルト/
 セレナーデ 第10番 変ロ長調 “グランバルティータ”

東京ニューシティ管弦楽団の新たな門出を祝うコンサートが開幕します。

これまでオペラ、バレエを中心に活動し、
北とびあでの春秋2回の定期演奏会でも着実な歩みを見せてきた東京ニューシティ管弦楽団は、
創立11年目を迎えた今年、定期を5回に増やすとともに
東京芸術劇場や東京オペラシティに進出。
親しみやすさはそのままに、シンフォニー・オーケストラとしてもオペラ・オーケストラとしても
輝かしい一歩を踏み出すのです。

常任指揮者・内藤彰のタクトにも意欲がみなぎることでしょう。
ウィーンのベテラン・ピアニスト、今をときめくラテン系の名テノール、姉妹関係にあるプロ合唱団、
ショパン・コンクールで羽ばたいた俊英ソリストを迎えての新シリーズ。
オーケストラの喜びをファンと分かち合う存在に育って欲しい——
客席の期待は高まるばかりです。

奥田 佳道

T O K Y O N E

ベートーヴェン(1770~1827)

《レオノーレ》序曲第3番Op.72b

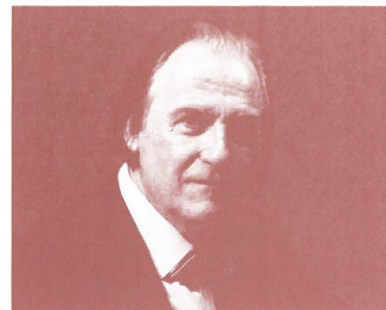
ベートーヴェン唯一のオペラ《フィデリオ》創作の過程から派生した名曲です。1805年11月、アン・デア・ウィーン劇場で《フィデリオ》の原型であるオペラ《レオノーレ》初稿が初演されました。この時の序曲が第2番Op.72a。オペラは失敗に終わり、ベートーヴェンは改訂に取り組みます。そして翌年3月、同劇場で《レオノーレ》第2稿が初演された時の序曲が第3番Op.72b。さらに、これら2曲とは別に書かれ、ベートーヴェンが亡くなってから発見された序曲が第1番と呼ばれています。

結局《レオノーレ》は大幅に改訂され《フィデリオ》となり(当然序曲《フィデリオ》が書かれ)、1814年5月にケルトナー・トア劇場で初演されています。ストーリーは、政敵ピツァロによって無実の罪で投獄された夫フロレスタンを救うために、妻レオノーレは男装

しフィデリオと名乗って監獄へ潜入、夫を救出する——というものです。

ややこしい話ですが、完成までに10年もの歳月を費やした歌劇《フィデリオ》には都合4つの序曲が書かれている、ということになるのです。オペラの展開を象徴する《レオノーレ》序曲第3番は、歌劇に挿入されることもあります。それ以上にオーケストラ・コンサートの開幕やアンコールを彩る名曲として親しまれています。

フロレスタンのアリアに基づく規模の大きな序奏、アレグロの主部が興奮を高め、その頂点で大臣到着を告げるトランペットのファンファーレがステージ裏から鳴り響きます。これは窮地に追い込まれた主人公を救う転機ファンファーレです。雄渾な楽想を経て、正義の勝利を喜ぶかのようなプレストの終結部へ。



イヨルク・デームス(ピアノ) Jörg Demus

イヨルク・デームスは、1928年12月2日にウィーン近郊のサンクト・ベルテンで生まれた。父、オットー・デームスは有名な美術史家で、そのビザンチン芸術に関する研究は世界的価値を有するものである。彼の母、エリカ・デームスはすばらしいヴァイオリニストであった。

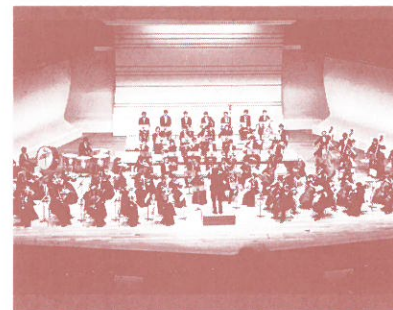
イヨルク・デームスは、11歳でウィーン国立アカデミーに入学を許され、同時にギムナジウムの教育も受けた。その間、14歳でウィーン楽友協会のブラームス・ザールでデビューコンサートを行い、大成功、以来、ウィーンでの毎年のピアノリサイタルのみならず、イタリア、またスイスからもピアニストとして招かれるようになった。

1950年、ロンドンでデビュー、1953年には、パリのサルガポーでのコンサートで、まさにセンセーションを巻き起こした。フィガロ紙の有名な評論家クレランドンは、「イヨルク・デームスは、すばらしい演奏で、聴衆を魅了しつつあった!」という見出しのもとに、感動的な批評を書き記した。1956年、ブゾーニコンクールで優勝。

日本へは、1961年初来日して以来、度々訪れて、ベートーヴェンの協奏曲第3番、5番、シューマンの協奏曲等、ソロのコンサートは毎年各地で行っている。

国際音楽祭にも各国から招かれ、ウィーン芸術週間、オランダフェスティバル、アテネ音楽祭、プラハの春、エジンバラ、バルセロナ、ブレゲンツの音楽祭、ベルリン音楽週間その他に出演している。

レコードも数百枚、その内容は、ピアノ曲はシューマン全曲、ドビュッシーも全曲、バッハは平均律全48曲、ゴールドベルク変奏曲、バルティータ全曲、イギリス組曲全曲、ベートーヴェン、シューベルト、ブラームス等その他、協奏曲、室内楽。ドイツ歌曲の伴奏は、フィッシャー・ディスカウ、シュライヤー、アメリクその他枚挙にいとまがない。1998年古希を迎えたデームスは、ウィーンでその業績に対して金のメダルを授与された。



東京ニューシティ管弦楽団 Tokyo New City Orchestra

東京ニューシティ管弦楽団は、1990年、音楽監督、常任指揮者に内藤彰を擁し設立された。定期演奏会の他、名曲コンサート、協奏曲・オペラ・バレエの伴奏、レコーディングなど幅広く活躍。

特にオペラの分野では評価が高く、二期会、藤原歌劇団の他、レナータ・スコット、アルフレード・クラウス、ヘルマン・プライ、カーティア・リッチャレリ、マリエッラ・デビア、マリア・キアラ、渡辺葉子等世界で活躍するオペラ歌手との共演も多く、聴衆や批評家のみならず、世界の一流オーケストラと共演している彼らからも、絶讃の言葉を贈られた。

バレエでは、国内のバレエ団の他、英国バーミンガムロイヤルバレエ団、ロシア国立レニングラードバレエ団等海外からのバレエ団の日本公演でも大変高い評価を得ており、今後も内外のバレエ団の公演がめじろ押しである。

また、桂三枝、三枝成彰、ケント・ギルバート、マリ・クリスティーン等を迎えてのファミリーコンサートも、大変評判が良く、多くの方から親しまれている。

メンバー個人個人の實力はもちろん、それぞれの温かい人間性も共演の指揮者、ソリストから大変高い評価を得ている。また、メンバーによる室内楽の活動も大変盛んで、特に、ニューシティウィンドアンサンブルは福祉施設や医療施設での訪問演奏を行うなど、ボランティア活動にも積極的に取り組んでおり、こうした幅の広い活動が各界より好評をもって迎えられている。一切の無駄を省いた新しいオーケストラの運営方針もユニークな発展を見せており、近年その活動が各方面から注目されている。

2000年度より定期演奏会を年間5回に増やし、東京第10番目のオーケストラとして今後の活躍が益々期待されている。



内藤 彰(指揮) Akira Naito

名古屋大学理学部卒業。在学中より指揮を山田一雄氏に師事する。桐朋学園大学研究科(指揮専攻)にて、小澤征爾氏、秋山和慶氏、尾高忠明氏他に師事し、修了後、(社)山形交響楽団の専属指揮者を3年間務める。

これまでに新日本フィル、東フィル、東響、新星日響、シティ・フィル、九響、名フィル他、日本の多くの主要オーケストラを指揮してきた。シンフォニーはもちろん、オペラ・バレエの分野でも、その音楽性とテクニックは聴衆の心からの共感と、共演者の絶大な信頼を得ている。

海外では、1991年旧ユーゴスラヴィアを代表するベオグラードフィルハーモニーを指揮し好評を博した。また、1992年には、モスクワ音楽院大ホールにて、モスクワ交響楽団を指揮し、最初のステージから満員の聴衆の5度のカーテンコールを受け、多くの楽員たちからもロシア音楽の魂を日本人から教えられたと絶賛された。1996年5月には、ロシアの国立ヴァローニシュ歌劇場にて、「セベリアの理髪師」を指揮し、絶大な賞讃を受けた。1997年5月には、ベラルーシ国立歌劇場にて「蝶々夫人」を指揮し、その成功により、今後も同歌劇場から定期的な客演が要請されている。

現在、東京ニューシティ管弦楽団、及び、プロ混声合唱団「東京合唱協会」音楽監督、常任指揮者。日本指揮者協会幹事。